

社会科の授業づくり(一単位時間)

社会の授業は「導入に始まり、導入に終わる」
◇授業展開を一つのストーリーに◇

事例教材

中学校1年 社会「歴史的分野」
古代国家の歩みと東アジア世界
『聖徳太子の政治改革』

内容の取扱い(学習指導要領より)

律令国家の確立に至るまでの過程は、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家に至るまでの過程を、小学校での学習内容を活用して大きくとらえさせる。

1 導入(つかむ)

既存の知識や資料、小学校での既習内容から聖徳太子に対する興味関心を十分に引き出し、本時の学習の足がかりとする。

2 展開(しらべる)

聖徳太子の政治の時代背景を理解し、太子がおこなった主な事業内容を教科書や資料集などから調べ、その意義を考える。

3 まとめ(まとめる)

班(小グループ)ごとに聖徳太子の政治の意図を考え発表し、理想の政治像をまとめていく。

インパクトのある資料により、生徒の学習意欲を高める。

本時の学習テーマを明確にし、学習の方向性の焦点化を図る。

本時が歴史的流れの中でどのような位置にあるのかを明示する。

板書の工夫
○学習内容を構造的に示し、授業の流れを確認できるように。
○色をつけて軽重をわかりやすく。

発表ボードなどを利用し話し合い活動をさせ、言語活動の充実を図る。

【社会科の授業を組み立てる上で考慮すること】

- ①授業のねらいを明確にすること (必ず黒板に明記する)
- ②資料を精選すること (見る・聴く・触る、常に資料発掘の目を持つ)
- ③地理と歴史の関連を図ること (学習の融合に視点を置く)
- ④小中の連携を図ること (小学校の学習内容を確認し、生徒の学習状況を計る)
- ⑤言語活動の充実を図ること (思考・表現活動を大切に)
- ⑥本時の展開を振り返ることができる板書計画を練ること (ビジュアルで構造的な板書が望ましい)

掛け地図
社会科の雰囲気醸し出す必須アイテムとして毎時間掲げるとよい。

